



利用者に「寄り添う」質の高いサービスを提供 働く人が輝ける企業を目指す



「持ち前の行動力で
これからも挑戦を続けてください」

ラッシャー板前
タレント

special

column | 常に背中を押してくれる存在

▼「子どもは上から高校2年、中学2年、小学生、1歳半の4人。シングルマザーの時期も長かったので、子どもを育てながら仕事をしてきたんです」と振り返る杉浦社長。介護業界で働く女性はシングルマザーも多いそうだが、入所施設の場合は夜勤や早出ができないため、子どもが小さいうちは社長も苦労があったそうだ。今でもまだ1歳半の子どもを抱える身。「経営者になれば一職員のころよりももっと忙しくなりますし、責任も重くなるでしょう。自分に務まるのかという不安は大きかった」と語る。しかしそんな不安を吹き飛ばしてくれたのが、独立への背中を押してくれた現在のご主人だった。「主人は保育園の送り迎えから食事の支度、子どもの寝かしつけまで何でもしてくれるんです。だからこそ、一歩を踏み出すことができた」と、支えてくれるご主人に感謝の想いを口にす社長。その想いを力に変え、これからも挑戦を続ける。



「人材育成に注力し、有料老人ホームなど
新たな事業にも着手していきます」

代表取締役

杉浦 安菜



interview

訪問介護事業を通して、住み慣れた場所で自分らしく生活に彩りを持って暮らせるようサポートしている『Aiolite』。杉浦社長をはじめ、業界経験豊富なスタッフが揃っており、2021年の設立ながら、順調に利用者数を増やしている。タレントのラッシャー板前氏が社長の事業に対する想いに迫った。

——杉浦社長のこれまでの歩みから伺います。社会人の第一歩はどのようなお仕事に？

私は好奇心が旺盛で、様々なことに挑戦してみたいという想いを持っていました。学生時代には芸能事務所に所属して芸能活動をしていた時期もありましたし、学業を終えてからは飲食業界をはじめ色々な業界でキャリアを重ねました。決してお金が欲しかったというわけではなく、興味のある仕事はまずやってみるという感じでしたね。

——バイタリティの高さが窺えます。現在手掛けていらっしゃる介護のお仕事に携わられたきっかけとは何だったの

しょうか。

小さいころから親が共働きで祖母に育てられたのですが、ある時、祖母が外出先で階段につまづいて転んだんですね。私は子どもでして、驚いて何もすることができませんでした。その時は周りを歩いていた人たちが助けてくれて事なきを得たのですが、私は一人っ子なので両親が高齢になった時に介護をしなければならぬ立場ですし、このまま何もできないようでは駄目だと思ったんです。また、19歳で結婚をして20歳で子どもを生んだので、子どもに誇れる仕事をしたいという想いもありました。その中で子育てをしながらステップアップが

て、社会にも貢献できる介護の仕事がいいのではないかと。それで有料老人ホームに就職したのが、この業界との出会いになりました。

——確かに介護業界は長く働けますし、経験を重ねてステップアップできると聞きますね。

ええ。子どもが小さいうちはパートで現場経験を積み、ヘルパーの資格も取得できます。さらに3年勤めれば介護福祉士、5年勤めればケアマネジャーの資格取得にも挑戦できるので、もし現場で働けなくなっても仕事を続けていけると思いました。

——実際に介護のお仕事を始められてみていかがでしたか。

大変なことはたくさんありましたが、お年寄りの方々と触れ合うのは何より楽しかったですね。最初は入居されている方々のお世話から始めたのですが、通所のデイサービスもあることを知り、そちらにも興味を湧いてデイサービスに移り

ました。さらに6年後には介護業界全体の仕組みやルールに興味を抱き、施設の立ち上げに関わったり、広告やマーケティングにも携わらせていただきました。様々な分野を経験しましたが、介護という業界には尽きぬ魅力があるということ身を以て実感しましたね。

——興味のあることには、どんどんと挑戦していく。そんな学生時代からの姿勢は、社会に出てからも変わらなかったんですね。貴重な経験を重ねられて、独立しようと思われたのはいつごろだったのでしょうか。

私は元々二番手でトップを支えるのが好きなタイプなので、独立心を持っていただけではありません。ただ、この業界は異業種からの参入が増えていることもあり、トップと現場サイドで温度差があるケースが多いんですね。自社の利益ばかりを追求してはいけない。その点を理解して、利用者さんや職員さんのことを考えている経営者の方が少ないと思いま

した。ハードな仕事の割には給料が低いと言われていたり、そういったことが人手不足の原因になっているという話を主人にしたところ、「それなら自分でやったらいいんじゃない？」と言われたんです。その一言に背中を押されて、一歩を踏み出そうと思ったんですよ。

——ご主人は社長のお仕事に理解のある方なんですね。

ええ。仕事のことはもちろん、家事や育児にも協力的で、本当に良き理解者だと思っています。朝から晩まで休みもなく仕事をしている私を見ていて、すごく稼いでいると思っていたらしいのですが(笑)、給料を知った時に安くて驚いたと。だからこそ独立して、働きに見合った給料を出せる会社にしたら良いと言われたんです。利益が出ればどんどん職員さんに還元していこうと考えており、一般企業と同じぐらいの水準にもっていかれたらと思ってスタートしました。

——実際に設立されたのはいつごろにな

るのでしょう。

昨年の10月です。職員はまだ10数名ですが、その中の多くが今までのつながりで集まってきてくれた人たち。経験が豊富で、気心の知れた人ばかりなんです。新たに募集して入社してくれた人も優秀な人材で、本当に人には恵まれました。一人のできることを限られていきますし、共に働いてくれる仲間がいるからこそできることがある。そう信じて、一丸となって歩んでいきたいと考えています。

——良い仲間にも恵まれて順調な船出ですね。では最後に、今後の展望を。

訪問介護からスタートしましたが、今後は有料老人ホームなどの施設も何軒か立ち上げて地域社会に貢献できればと思っています。訪問介護の分野も人手不足なので、若手人材を育てたいですし、若いお母さんの助けになるように保育事業にも取り組んでいきたいですね。

(2022年5月取材)